

SHONAN MAIL

2026.JAN/VOL.221



医療法人徳洲会
湘南鎌倉総合病院



SHONAN MAILのご意見・ご感想はこち
ら



SHONAN MAIL 1月号 2026年1月1日 発刊 広報室

まちがいさがしの答え

①おとしだまの袋の色 ②あみだくじの棒がハート ③運勢「大吉」と「小吉」の位置 ④茄子の向き ⑤こま



はじまりの瞬間。

朝の光がまっすぐ射し込み、
いつもの景色に新しい表情を与えていきます。
空はゆっくりと色を変え、
町並みには新しい一日が始まる気配が静かに広がっています。

誰かの一日が始まり、
誰かの一日が終わる。
それぞれの時間が、
一筋の光の中でそっと重なり合っていきます。

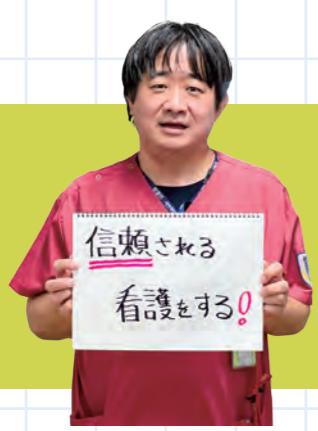
ほんの束の間の静けさ。

新しい年も、
この光のように、静かで確かな時間が
ここにいるすべての人に届きますように。

その願いを、そっと胸に抱いて、
2026年の朝を迎えます。



薬剤部 勝間田文香
ヘアドネーションに挑戦したいです！



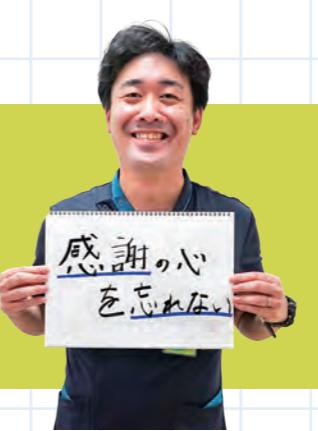
ICU 看護師 今成亮
信頼される関わりをしないと前には進めないため。



外来看護助手 藤間みどり
乳がんになり、術後ヨガをする事で心身共にほぐれていくのを感じた。その素晴らしさを多くの方に伝えていきたい！



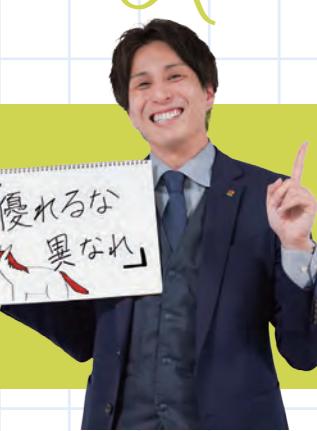
放射線部 村岡陸宏
今年こそセ・リーグ制覇！



救急調整室 内田悠太
多忙な業務の中、周りに対する感謝を忘れがちなため。



リハビリテーション部 西村彰紀
自身も部署の職員も成長することに期待しています。



経理課 野田亜紀人
誰かの後を追うのではなく自分らしさを大切にする。比べることよりも、磨くこと。個性を磨いて自分だけの特別な価値を目指したい。



病棟看護師 井原彩乃
無意識の“貰っちゃった…”を絶滅させる！小さなストレス源の絶縁をしていきたい！滅=浄化！



腎臓病総合医療センター 塚本雄介
お洒落して気分上げていこう！



病棟看護師 宇陀恋
25歳になるから。素敵な大人を目指したい！

新年の抱負 2026

働き方の目標から日常
一言まで、個性豊か

の楽しみ、ご愛嬌の
な抱負をどうぞ！



救急総合診療科 関根一朗
正しくて優しい医療を、わかりやすく伝えたい。



栄養管理室（洗浄室）野田美告
パワーと癒しの源だから。



放射線部 紫谷慎貴
サッカーが好きで、現地観戦が自分の夢だから。



検査部 長田和士
海外旅行に行きたいです!!



救急総合診療科 石塚侑大
3年前のリベンジに向けて、まずは予選会を勝ち上がり出場権を獲得する。



メディカルクラーク 広川美幸
制服がきつくなってしまった！笑



リハビリテーション部 三浦由起子
紅茶派。すてきにお茶を嗜みたい！



予防医学センター 尾崎美涼
SnowManに会えることを励みに日々の仕事も頑張ります!!



初期研修医 山縣奎介
誰もが泣けるようになる経験をしました。今以上に“感情に潰されず”医師として活躍したいです。



臨床工学部 島野佳鈴
1日1日を大切に。仕事もプライベートも全力で取り組みたいです！



外来看護師 内田真衣子
小児がん医療を広めたい！現在、鎌倉の地域力を活かした小児がん支援を企画中。2026年に開始予定です！

いんちょうの
ととのいじかん。
vol.1

鎌倉で、坐る。

観光のにぎわいから少し離れた、建長寺の堂内。
外の時間とは切り離されたような静けさの中で、院長は畳に坐った。
背筋を伸ばし、呼吸に意識を向ける。
考えは浮かんでは消え、また浮かぶ。
正そうとせず、追いかげず、ただ手放す。
坐禅は「何かを得る」時間ではなく、
余分なものをそっと下ろしていく時間なのかもしれない。

医療の現場では、瞬時の判断と決断が求められる。
その積み重ねの中で、
自分自身の呼吸や心の動きに目を向ける機会は、意外と少ない。
静かに坐ることで、
見えなくなっていた輪郭が、少しずつはっきりしてくる。

挑戦は、特別な場所や大きな変化だけにあるわけではない。
「坐る」というシンプルな行為の中にも、
次へ進むための確かな手応えがあった。



大本山 建長寺

☎ 0467-22-0981
〒 247-8525 神奈川県鎌倉市山ノ内8
拝観時間：8:30～16:30 拝観料：
大人（高校生以上）500円、小人（小学生）200円 ※お支払いはすべて現金のみ
※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方はご提示いただきますと、ご本人と付添1名は無料です。バリアフリー、唐門の前までは車椅子でお入りいただけます。
境内にバリアフリートイレを設置しています。車椅子の貸出もございます。（数に限りがあります）



副院長座談会

笑いあり、驚きあり。

医師になる前の挫折や迷い、医療の本質、病院の未来までざっくばらんに語っていただきました。

副院長5名による本音のクロストークです。

脳神経外科 主任部長
渡辺 剛史

救命救急センター センター長
山上 浩

再生医療科 部長
大竹 剛靖

消化器病センター 主任部長
小泉 一也

急性期総合診療センター センター長
集中治療科 部長
小山 洋史



当院の開院の年である1988年、何をしていましたか？

大竹 1988年は医者になって2年目ですね。一般内科の研修をしていました。とにかく「内科を叩き込む」っていう時期で「よし、やってやるぞ！」つて感じでしたね。僕らしいな。

小泉 僕は中学生でした。実は当時、将棋のプロを育成する奨励会に入っていた、静岡から通っていました。

一同 え！ そうなんですか！（驚）

小泉 そうなんです（笑）本気で将棋に取り組んでいたんですが、全国から同じような人が集まってきた中で、才能の限界を感じてしまって…高校に行くか、プロを目指すかで悩みに悩んで、進学しました。

大竹 それ、もしかしたら今ごろ名人になっていたかもしないですよ！

小山 今も将棋はやってるんですね？

小泉 将棋ウォーズっていうアプリでやってます（笑）

小山 僕は小学校4年生ですね。名古屋出身で、ほとんど普通の小学生でした。塾に行き始めたくらいかな。とくに面白い話はないですね（笑）

渡辺 僕は中2くらいですかね。小学生の時はサッカーチームに入っていたのですが、中学からは少林寺拳法部に入り、大学生までしっかり格闘技にハマってしまいました。中学生の当時は、強くなることばかりに夢中になっていました。

山上 今でも格闘技はされているんですか？

渡辺 大学のときに韁帯切ったりしたこともあります…今は手術に支障が出たら大変なので控えてます（汗）。

山上 我々は小学校4年生で、小山先生と同学年ですね。福井の田舎育ちで、放課後はとにかく遊んでいました。一番頑張ったのは、1年間ずっと半袖半ズボンで過ごすことですね（笑）

一同 そういうの、ありましたね～！

山上 どんなに寒くて雪が降っていても半袖半ズボンで登校して。母親からは「来年はやめて」と言わされましたね（笑）



医療の道を志したきっかけは何ですか？

大竹 中学生のとき、夢が3つあったんです。大型船の船長、文豪そして医者です。視力が悪いから船長は無理だなと思いました。（笑）。残るは文豪か医者なんですが、両親から医者を薦められたこともあって、中3くらいには医者になろうと決めていました。

山上 私は祖父の病気がきっかけです。高校2年生のとき、病院にお見舞いに行って、医師の姿を見て憧れたことを覚えています。あと実は建築家を目指したことでもあったんですけど、担任の先生に「性格的に医学が向いてるんじゃないか」と言われて建築士は辞めました。

渡辺 僕は物心ついた頃から、父の右手が不自由な姿を見てきたことが、潜在的に医学の道を志すきっかけになったと思います。高校生の時には、気づくと本棚に人の心理や、脳の働きにまつわる本がたくさん並んでいました。研修医の時、手術用の顕微鏡の光に照らされた脳が浮かび上がり、そこにメスを入れるシーンを見て、「こんな神秘的な領域にメスを入れていいのか」と衝撃を受け、自分もその領域に踏み込む脳外科医になりたいと、脳外科医の道を選びました。

小泉 私は将棋を辞めてから数年間は何をやっていいかわからない時期があったんです。でも、将棋の世界とはまた違った形での役に立てる仕事って何だろうと考えて、医師を選びました。

渡辺 僕は将棋を辞めてから数年間は何をやっていいかわからない時期があったんです。でも、将棋の世界とはまた違った形での役に立てる仕事って何だろうと考えて、医師を選びました。

山上 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

渡辺 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

山上 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

渡辺 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

山上 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

渡辺 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

山上 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

渡辺 今は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

色々な局面を経て医師になった先生方ですが、医師になっていなかったらどんな仕事をしてみたいですか？

山上 私の憧れの職業はパイロットです。高所恐怖症なんですが（笑）自分で操作して高いところを飛んでるってすごく憧れを感じます。飛行機の操作って責任重大じゃないですか、ひりひりするというか、やりがいがあるのかなって思います。

小山 ……仕事に就かないのが一番いいですね。

一同 はははは！

小山 世界を歩いてみたかったですね。何にも縛られずに、海外を飛び回るような仕事は憧れますね。

渡辺 僕はギタリストですかね。大学生になってからギターを始めました。やがてSONYのオーディションに受かって、育てるバンドに選ばれて活動をしていました。医学部の学年が上がるにつれ、活動に影響が出始め、周りの友人からは「医者辞めろ」と言われ、一時休学も考えました。でも、メンバーは皆真剣にプロになることを考えていたのと、自分にはるかに上手い人が大勢いるのを当たりにして、ギターは趣味としてやっていくことにしました。

山上 アコギとエレキギターどちらですか？
渡辺 どちらもやります。学生時代はロックでしたが、音楽の趣味がだんだん変わり、今はジャズギターを練習しています。

広報 渡辺先生は色々なことをされて来たんですね…！（驚）

大竹 僕は文豪かな。自分の力で「残るもの」をつくりたいっていう気持ちもありますね。小林院長もたくさん本を書かれていますけど、僕もそういうのがやってみたいですね。

小山 先生、今からでもいけますよ！

小泉 私は今の仕事がすごく好きなので、生まれ変わっても今と同じことをしていかないですか…あれ？これってカッコつけていいんですね？（笑）

一同 どうぞどうぞ！（笑）

小泉 強いて言うならば格闘技をみるのがすごい好きなので、子どもの頃からやればよかったなと思います。渡辺先生、ぜひ教えてください！

渡辺 もちろんです！

広報 院内には格闘技ファンも結構いますよね！

渡辺 形成外科のU先生！現役ですからね！

小泉 ERの看護師さんにも声をかけていたいたことがあります！

山上 Tですかね？

小泉 はい、そうです！

ここからはテーマを変えて医療のお話をお聞きします。昔と今の医療で、変わったことや逆に変わらないことはありますか？

渡辺 脳外科に関してだと、今はMRIを撮ればすぐに病変がわかりますが、CTやMRIが登場する前は、血管撮影をして、血管が正常からずれて走行していたらそこに何か病変があると判断していた歴史があります。血管撮影では、「何か」の質まではわからないので、開けてみたら予想と違う病変で、頭を開けて閉じるのみで終わる手術もよくあったと先輩に聞いたことがあります。

山上 私が担当している救急の領域に関しては、診療技術とかの進歩はそんなに変わってないかなと思いますね。蘇生のデバイスとかは確かに変わりましたけど、基本は話を聞いてしっかりと体をみて、時にはエコーとかCTをやって画像をみて診断する、根本的にはあまり大きさは変わってないでしょ、今後もそんなに大きくなれないだろうと思います。



渡辺 昔は、画像診断に頼れない分、問診と診察で診断をし、その能力が今より卓越していたのだとよく言われますよね。

山上 そうですね。CT撮影しよう、超音波撮影しようって、そっちのほうは速くて確実なんですが、確かにそういう意味では今は画像に頼りすぎているかもしれないですね。昔は話を聞いたり、体の所見をとることが丁寧にできていたのかもしれません。

小山 当時はフィルムをシャウカステン*で診てましたよね。比較するのも一苦労だったりとか。
※レントゲンフィルムやCT画像を後ろから光で照らして診断するための装置

大竹 確かにね～シャウカステンだったね。

山上 そうでしたね。ガチャって機械に入れてね。すごく小さい画像が20枚くらい並んでましたよね。

小山 過去のCTとかはフィルム室に取り寄せて持ってきてね。

山上 研修医のときは抱えて走って持ってきたりしてね。当時のことを振り返ると昔と今では診療のスピードががちがいますね。

一同 全然ちがいますね。

山上 効率的になりました。
昔は論文を自分で図書館に調べに行ってました。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

小泉 医療安全に関してはすごく良くなっています。同意書が増えて、患者さんに説明して、一緒に選択する医療になりました。患者さんにとっても我々医療者にとってもこの30年で改善された点なのかなと思います。

小山 良くも悪くも標準化されたと思います。昔は情報を加めることに時間がかかったので、病院によって差がありました。かなりばらつきがありましたけど、今はそういうことはほとんどないですね。色んな意味で質が上がっているというか。そういう意味では良くなった面もありますが、逆に標準化され過ぎて学ばなくなるんじゃないけど、表面上でなんとなくできるようになったまま終わるっていうのがある気がします。難しいですね。

渡辺 インターネットの普及によって便利な社会になった反面、昔のほうが良かった点もあるんですね。



今後も大切にしていきたい考え方や行動はありますか？

山上 まず思いつくのは、「医師としての姿勢」ですね。「生涯教育」と言いますが、これまで学んだ知識の貯蓄だけでやっていく仕事ではありません。治療機器や検査方法、研究の情報は日々更新されるので、常に自分の知識をアップデートしていく必要があります。それと同時に、若い人から学ぶ姿勢も大切だと思います。教えるだけではなく、謙虚に学び続けること。あとは何よりも医療は人に対する仕事なので、患者さんへの丁寧な説明や挨拶といった基本的な行動は、これからますます重要なことだと思います。

大竹 それはまさに「人だからできること」ですね。そうですね。

山上 本当に、学ぶ姿勢は大事ですね。僕は患者さんから学ぶことも大切にしています。患者さんに対する尊敬を忘れず、常に学ぶ姿勢を持ち続けたい。医者になつたとき、叔父から「有学（うがく）」という言葉を贈りました。これは「学がある」という意味ではなくて、「学ぶべきことがある」という意味です。この考えはこの先も大切にしていきたいですね。

小泉 今は簡単に調べられる時代ですし、エビデンスを持つために知識を持つことも大切だとは思います。だから3つの疾患を考えるのにすごく時間がかかりました。今はガイドラインも整備されたり、情報がすぐ手に入るので便利ですが、その反面、昔に比べると考える時間がかなり減ってしまったんじゃないかなと思います。

渡辺 「初心忘るべからず」です。医者になりたての頃の気持ちを忘れないよう、何かあるたびに初心にかえるよう心がけています。患者さんによって、医療に求めるものが本当に違います。自分にとって、あるいは「世の中一般的に」当たり前であります。だから、常に患者さんやその家族は何を求めているのかを知ろうとする姿勢を持ち続けたいと思います。

小山 徳洲会の理念に「生命だけは平等だ」という言葉がありますが、正直、若い頃は想像できませんでした。でも『今すぐ平等にはならなくて、平等の世界を目指すことはできる』という言葉を聞いて、確かにそうだなと思ったんです。この想いを次の世代に伝えていくことでそこには近づいていく未来があるかもしれない。お花畠的ですが、ちょっとだけ思ってます。だからこういうマインドを繋げてもらえるように伝え続けていきたいなと思います。



今後、どんな病院にしていきたいですか？

大竹 地域の中核病院としての役割をしっかりと果たすこと、国際化。外国の方も含めて平等に医療をする。地域を守りつつ国際的な視野をもったスタッフを増やすことです。あとは何よりも全人的な医療をすることがあります。これは医療人にとって一番重要なことなんじゃないでしょうかね。

渡辺 昔から診療科の垣根を越えて声を掛け合える雰囲気は、この病院の大きな魅力だと思います。診療科や職員が増えて、規模が大きくなり続けても、そこは変わらずスタッフが一丸となって診療していく病院であり続けて欲しいです。あと、人を動かすのは、やっぱり理念や熱意だと思います。院長先生もよく仰っていますが、本当にその通りで、組織が大きくなってきた今は、トップダウンだけで動くというより、想いが現場に伝わって、各科や他職種に伝播する。そして一人ひとりが自発的に動くようになります。病院全体が前に進んでいく、という形になると良いなと思っています。

山上 私はこの病院が大好きなんです。ここには医療に対して真っすぐ人が集まっています。だからどんなに大変でも、この人たちとならやっていけるし、一緒に働くのが気持ち良いと思える。そういう仲間を大切にしながら、増やしていきたいです。あとは、もっとみんなで夢を持っていきたいです。この病院をみんながどうしていきたいか、どうあるべきかというの職員一人一人と考えてより良い方向に進めていきたいですね。大きい組織だからこそトップダウンではなく、みんながそれぞれ自立して方向性や良い案を出していきたいです。職員が2500人いるので色々な意見があるはずなんですね！

小泉 24時間365日、患者さんを断らない。これを継続することは前提に、その上で、専門科がしっかりとレベルを上げることが大事だと思います。この病院に来てよかったと思ってもらえる医療を提供していきたいです。

小山 こんなに面白い病院はなかなかないと思います。がんの先進医療と、地域に根差した多様な救急医療が同時に成り立っていて、その両方に関われる機会があり、そこがこの病院ならではの面白さだと感じます。『湘南鎌倉の両方をやる』。それが両立できているのは本当にすごいことで、今後も続けていくべき強みだと思います。

広報 座談会は以上で終了です！ありがとうございました！最後に記念写真の撮影をします！はい、チーズ！



STAFF



旬のひとさじ

VOL.1 だいこん



500B

煮てよし、おろしてよし。万能の一本。

冬の定番だいこん。
煮ると胃にやさしく、すりおろすと食欲のない時にも役立ちます。
皮を少し厚めにむくと嚥下しやすく、ご高齢の方にも安心して取り入れられます。だいこんは部位によって味が異なり、上部は甘みが強く生で食べるとシャキシャキとした食感が楽しめます。
中心部はだしをよく吸い、煮物にぴったり。先端は辛みが際立つため大根おろしに最適です。
使い分けをすることで調理の幅が広がり、季節の食卓を豊かにしてくれます。

今日の一品にいかが?

- だいこんと鶏肉のやさしい煮物
食欲のない時にもおすすめ！

だいこんとツナの簡単サラダ
ビタミン C がとれる軽い一皿！

ビタミン C や食物繊維が豊富で、
免疫維持や腸内環境のサポートにも
役立ちます！

栄養管理部 係長 古旗 省吾

NEWS

新入職ドクターのご紹介

2026年1月より心臓血管外科に新たな医師が着任します



心臓血管外科
ホームページ

伊藤 敏明医師
ホームページ



湘鎌 TikTok アカウント開設！

2026年1月より、当院公式TikTokアカウントを開設します。
気軽に見られる、ゆるっと楽しめる内容をお届け予定です。
コンテンツは随時更新しますので、ぜひフォローしてください♪



がん患者総合支援室スタッフ

受付時間：月～金（祝日を除く）
9:00～16:00

\ Follow me ! /

Instagram も引き続き更新中！
公式アカウント @SHOKAMA_OFFICIAL

SPOT THE DIFFERENCE

ちがうのどこだ?

全部で5つまちがいがあるよ。どこがちがうか、探してみよう！

